

議事1～3の概要について

【議事1 いじめ問題について】

(1)現状

令和3年2月22日いじめ重大事態発生を認識し、荒尾市いじめ防止対策委員会に事実認定や今後の提言等について諮問。令和3年7月13日荒尾市いじめ防止対策審議会答申、今後に向けた措置の提言として、以下の5つの項目が示された。

- ①言語環境の改善、②生徒指導のあり方に対する見直し、③ SNSへの対応
- ④外部専門機関との連携、⑤保護者等家庭とのさらなる連携

(2)課題

今回の提言は、教育に携わる者にとって、極めて重要なことと認識しなければならない。児童生徒と教師との間の高い信頼関係の構築、PTA活動との強力な連携など、荒尾市の人権教育の成果となる人権感覚、感性を生かしたさらなる取組が必要。

(3)対応

- ①言語環境の改善～本市内の児童生徒から溢れ出すほめ言葉のシャワー
令和3年荒尾教育フォーラムでの「菊池省三 氏」講演会実施
今年度の各校の取り組み、来年度の各校の取り組みのとりまとめ
- ②生徒指導のあり方に対する見直し～児童生徒の主体的な生活の見直し
- ③SNSへの対応～逆転の発想
- ④外部専門機関との連携～正しく使う生活ツールICT
- ⑤保護者等家庭とのさらなる連携～子供たちの活躍を地域へ情報発信

(4)将来像等

本市の「いじめをしない・なくす・させない」取り組みはこれで終わりということではない。子供たちの安心・安全を守るために、これからも学校教育における「いじめをしない・なくす・させない」歩み続ける。

【議事2 不登校問題について】

(1)現状 資料参照

(2)課題

ここ数年本市内の不登校児童生徒は微増の状態が続いている。不登校等の児童生徒、保護者の学びの保障への希望(要求)、不安等の声がある。ダイバーシティ(多様性)を認め、学びへの保障に取り組みねばならない。

(3)対応

①荒尾第三中学校にハートフルルームの設置

生徒の多様性を大切にし、学ぶ内容や学ぶスペースを確保している。そのため、三中の不登校等生徒数はここ数年に比べて増加しておらず、効果を上げていると思われる。

令和3年11月17日荒尾三中生徒指導研究発表会実施予定

(4)将来像等

小袋教室など適応指導教室のスタッフ、場所、施設等、そのノウハウの積み重ねの蓄積は高い。そのノウハウを今後も生かし、三中ハートフルルームの実績を踏まえた取組の充実により、多様性を認める本市の教育を進める。

【議事 3 学力向上について】

(1)現状

ここ数年、年度によってある程度の変化があるものの微増ながら、本市の児童生徒の学力の向上が見られる。ここ数年取り組んでいる「あらおベーシック」の成果であると考えられる。

(2)課題

「あらおベーシック」は、今年度、「熊本の学び」、そして ICT 活用と融合し、「進化型あらおベーシック」へと進化した。その普及、研究を通し更なる向上に取り組まねばならない。

(3)対応

①授業改善アドバイザー事業

講師を招へいし、各校で授業改善、研究に取り組む。

②令和 3 年 6 月 18 日八幡小学校にて研究授業、オンライン公開実施

③学力向上重点支援地域事業

県教委と市教委が連携して、学力向上アドバイザーを招へいし、中学校に特化して、学力向上の施策に総合的に取り組む。

(4)将来像等

「進化型あらおベーシック」が県教委の進める学力向上、新しい時代を拓く ICT の効果的な活用、授業改善に資する効果を発揮し、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を備えた荒尾の子どもたちを育成する。